

BUSINESS

ビジネストーク

TALK

「サイロ・エフェクト」

頭取 高橋 祥二郎



企業は社会の進展に伴い、組織が細分化、専門化、肥大化する宿命にある。その結果、組織はそれぞれの部門が協業することなく各部門の利益を優先し、時代の変化に対応できなくなり衰退する。企業経営者は、このような性質を常に念頭に組織運営しなければならない。—ジリアン・テット著『サイロ・エフェクト』(文芸春秋)の指摘です。

組織など現代社会のありとあらゆる所でみられる現象としたうえで、グローバル化、複雑化する現代社会では、組織が高度専門化することはむしろ当然であるとしています。そのうえで、その弊害を防ぐためには、「サイロ」にコントロールされるのではなく、「サイロ」をコントロールすることが重要である、と指摘しているのです。

同書では、高度に複雑化した社会に対応するために、組織が限りなく細分化、孤立化し、全体状況に対応できない状況を「サイロ・エフェクト」と定義しています。「サイロ」とは、穀物を保存するために農場に設置された高い塔を指し、外部から隔離された部署を意味します。

Bank of Switzerland)が、2008年の金融危機で多額のサブプライムローンを抱えて破綻寸前に追い込まれました。世界でトップクラスの経済学者を有するLSE(ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス)は、金融危機を誰も予見できなかった。その原因を、テット氏は「サイロ・エ

フェクト」にあると結論付けています。

また、「サイロ・エフェクト」に陥らないためのさまざまな取り組みも紹介されています。専門家集団であるフェイスブック社は、創業当時から「サイロ」が組織に与える弊害を認識していました。組織の革新性を維持するために、スタッフが一定期間、他部門で仕事をする事で「気付き」を促したり、異なる部門同士が連携を取れるように建物のデザインを工夫するなど、絶えず「サイロ」の長所を生かし弊害を無くすことに取り組んでいます。

当然、こうした取り組みは、コストが発生し非効率に見えますが、長い目で見れば組織がいきいきとしてくるなど、コスト以上のメリットがあることを知り、「組織の活性化とはどういうことなのか」どうすれば実現できるか」について改めて考える良い機会となりました。

テット氏は、「サイロはおのずから崩壊することはない。(中略)何よりも重要なのは、人間の想像力だ」と、「サイロ」をコントロールできる人材の重要性を指摘しています。

まさに「企業は人なり」です。当行は、高度な金融知識を持ち、支店はもとより本部各部との情報共有化、連携ができる人材の育成に努めることで、「サイロ」の長所を生かし弊害を是正して、お客さまのニーズにお応えする「ファースト・コミュニケーション・バンク」を目指してまいります。

※お客さまとの緊密なコミュニケーションを図り、何かあれば当行へ真っ先(First)にご相談いただき、そのご相談に迅速(Fast)、親切、親身にお応えする銀行。